

「わからなくても大丈夫 -答えを持たない幸い-

『聖公会が大切にしてきたもの』(西原廉太著)の中に、次のような箇所があります。引用して紹介します。

みなさんは「聖公会は答えをはっきり言わない」だとか、「聖公会は何だが分からない」などと言われた経験をお持ちだと思います。確かに、極端に言えば、聖公会とはファイナルアンサーを出さない教会です。もちろん、ファイナルアンサーがないわけではありません。しかし、ファイナルアンサーはただ神のみが知っておられるというのが聖公会の立場です。常に真理を求めて旅をし続ける、解釈し続けるのですから、「簡単に「答えはこれです」とは言わないのです。聖書・伝統・理性という道標を頼りにしながら、解釈し続ける、歩みを続ける、真理を求めて旅をし続けることを大切にしてきたのです。(引用はここまで)

何でも理由をはっきりさせ、責任を問う現代にあって、私たちは意味を見いだすことや、何かを達成することで人生の価値を計ります。そんな時代に、わからないことの中でも感謝できる、苦悩の中にも感謝はある、自分の人生の意義を見いだせる、存在を良しとされる世界があります。それが聖書の世界です。主イエスは、どうなるかわからないことを良しとしてくださる方です。迷いながら生きている私たちを祝福して下さるお方です。

「私たちは到達したところに基づいて進みましょう」(フィリピの信徒への手紙 3:16)のみ言葉を心に留めたいと思います。

この箇所は目標をめざしてひたすらに前を見て歩みましょうということを言ってい

る箇所なのですが、大切なのは「到達したところ」だと思うのです。皆さんが今到達している場所はどんな景色が見えてますか。健康状態はどうですか。バラ色の景色が見える時、健康状態も良く元気いっぱいの時もあるかもしれません。しかし、実際は私たちはそうではない方が多いです。

どう生きたら良いか、どう判断したら良いかと今後の人生に不安を抱えて生きています。教会を訪ねてくださる方、電話で相談をされる方に「どうやって生きたら良いでしょうか」「とても気持ちが苦しいです。どうしたら楽になるのでしょうか」と尋ねられます。私は返答に毎回困ります。そして、正直に「そうですね。私もその答えを日々探しています。」と応えることが多いです。

主イエスの弟子たちも皆が目標(神の国)を目指して主に従って歩もうとしましたが、常に迷い、時には反抗しました。そんな弟子たちと主は日常生活を共にしながら、励まし、時には叱咤し、忍耐強く接してこられました。それは私たちに対してもそうです。分からないこと、迷うことは駄目なことではない。「わからなくても大丈夫。そのままのあなたで私を信じなさい」との主のみ声を聴きたいと思います。

(司祭 越山哲也)